

まえがき

農林水産政策研究所では、平成 19 年度よりプロジェクト研究「新たな農林水産環境政策の社会経済的影響評価に関する研究」（平成 19 年度～平成 21 年度）を実施し、農林水産環境政策が与えるさまざまな影響を多角的に分析してきた。

その中の研究課題として、生物多様性へ配慮した農産物生産がもたらす影響分析を課題として設定していた。本資料が刊行される 2 か月前の平成 22 年 10 月には、名古屋で生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が開催され、生物多様性への国民の関心が大いに高まった時期でもあった。本資料は COP10 を見据え、2008 年から取り組んでいた農業分野における生物多様性保全の取組に関する研究課題のうち、わが国の農業生産の現場において、生物多様性保全の取組がどのように行われているか、どのような課題があるのかを明らかにし、農業分野における生物多様性保全の取組を今後どのように促進していくべきかを明らかにすることを目的として、さまざまな手法を用いて環境影響の評価や経済分析を行った研究成果をとりまとめたものである。

第 1 章では全国で行われている生物多様性保全に配慮した米生産事例を列挙し、農林水産省が定めた生きものマーク農産物の取組について現状と課題をまとめた。また、第 2 章以降では、兵庫県豊岡市におけるコウノトリ育むお米を具体的な事例として取り上げた。第 2 章でコウノトリ育むお米の消費者を対象としたアンケート調査から生物多様性保全の経済的価値を計測し、第 3 章では慣行栽培からコウノトリ育むお米への転換による地域経済効果を計測した。第 4 章では環境面への影響として、ライフサイクル・アセスメント（LCA）を用いてコウノトリ育むお米の生産に関わる温室効果ガス排出量を計測した。

本資料が生物多様性に配慮した農業生産の普及促進のための基礎的な分析資料として活用されれば幸いである。

平成 22 年 12 月

農林水産政策研究所

謝辞

本研究を遂行するにあたり、各方面に多大なる協力を頂いた。豊岡市役所コウノトリ共生部コウノトリ共生課若森洋崇氏およびJAたじま米穀課堀田和則氏には、コンジョイント分析のための消費者アンケート実施に際し、アンケートの配布をお願いしたお米屋さん23社全てに足を運んでいただき、アンケートへの協力依頼に多大なる尽力をしていただいた。そして、アンケートの配布にご協力いただいた関東地区8社、関西地区15社のお米販売事業者各位のご協力なくしては、本研究の遂行はできなかった。また、インターン研修生として政策研に来てくださった京都大学大学院地球環境学堂（現株式会社シグマクシス）中川瑠美さんには、とても煩雑なアンケート調査票の発送および集計作業を一手に引き受けていただいた。中川さんが来られた時期は環境プロジェクトの研究スタッフが慢性的に不足していた時期であり、中川さんにはマンパワーの不足を補って余りあるほど大いに助けられた。

第4章の環境影響評価分析では、豊岡市内の6戸の農家の方々から分析データをご提供いただいた。これらの農家の方々には、年末年始のお忙しい合間を縫ってのデータ作成など、研究遂行にあたり絶大なご協力をいただいた。さらに若森、堀田両氏および豊岡農業改良普及センター池口直隆氏、本田理氏には、産業連関分析およびライフサイクル・アセスメントのため、豊岡市内の6戸農家へのヒアリング調査の依頼、会場設定などの事務手続きも快く引き受けてくださり、本研究の円滑な遂行を助けていただいた。

これらの皆様のご協力なくしては本研究プロジェクトの遂行もままならなかったことは自明である。本研究プロジェクト資料の刊行に合わせ、改めて感謝の意を表したい。